



5

2311



1969
4

於子集卷四目錄

冬部

初冬、付亥子

瑞花

口切

十夜法子

日蓮忌

火燒

時雨

木繁

達磨忌

一向宗法子

霜

雪

霰

冰 付冰柱

鴛 付水多

埋火

神樂

茶花

衾

大階

霰

鴨

鷹

炭竈

早梅

枇杷

紙子 付頭巾

佛名

鉢扣行

冬月

細代

節分

年内甚

年忘

雜冬

歲暮

茶子集卷之四

松子集卷第四

初冬

小まよわ持店のよのく大社 風松子 定重

法のるも糸りのなま神のあま 内海氏 安重

三園はくふりまふすま神正月 博渡井氏 正村

孫晨うまふ守店や神正月 肥後彦平 資重

燈のや流あまあう一神れあま 小山氏 重尚

厚もそとわのま小まれ中 住吉住 正利

祈禱するもあまれひまを神正月 江戸住佐橋氏 無心

ねされまも片のわいとたの小春 江戸美徳松氏 保意

おらんよわいのまもあまらうのあま 姫路住 義知

息災よまうか成海うまれ子餅 阿波氏 直入

一とせよ一統あまや神無月 同 同

定命もあまうまいんふ前あま 内海氏 安重

時雨

冬おりののく流あま出る時雨 何方子

此の初の上とつてそとぬ時海 平吉

水の中へ流ぬ河名の上とれり 重道

風本は葉うらま二のふ一時雨 良直

あつてゆく時ぬれをわはるる 蝶子

先の上とつて名と時ぬれたひり 幸庵

志と家と上と葉も上とわわ松の 離雲

時を替へて上と葉と上とるる 直入

川の上の上とわの雨をわわ水 重尚

積るのわめと家と時ぬれと名と 定重

ぬれおとるる上とつてと時ぬれ 貞富

湯治をける人の汗はるる

湯乃山や谷と時ぬれとるる 梅盛

加賀の葉と上とつてと

山とつて名と月と上とつてと 同

達磨忌

達磨忌の初代をわはるる 重尚

達磨忌は葉と上とつてと 幸

肥後住

江津郡

幸列掛川

懐惠軒

阿波氏

小山氏

風松子

大坂住

小山氏

姫路住

法るの事、達海手流すに珍像
三川吉田
可尋

十夜法る

寺くれまのちやを懸群十夜
播列定栗
六道孔口生もろうのむ十夜
根尾氏
扣く鉦鞞ふとふとる處も十夜
冬貞
赤若氏
不浄の身流流ふる十夜
真就
小山氏
重尚

季けんよの心十夜乃ちらふ心
井口氏
十夜中はもあちやお志共
信列
六字寺中昼も唱ふ十夜
政久
月松子
定重

や西の片とめんときく比丘尼の
梅盛
あまう、熟ア居けるよみく
佐心子
強後たの心人、尼夜、此十夜

日蓮忌

祀も系世何れきとう當宗日蓮忌
姫路住
正儀

御新撰や勅指不才十三日
寺役やとお経とよめる日蓮忌
野田氏 基春
凡松子 定重

一向宗法子

お世時とくお志やう懐ち世お宗
お霜月おちやう門徒や日系結
お露月や海軍とあけお世月
新死んや度まてあけお世月
依見住見王氏 直昌
姫洛住 秀昌
依見 灰世
凡松子 定重

家も津土ゆひまらむ法事か
安重

帰丁花

帰花今ういふととけうう乳
十片きおいさくや子福と花の
埋本も炭火とるう帰丁花
本つけ成の旅の宿と花海花
一か倉りなむれありて
釣船小雅ういふととけうう乳
大坂住 荻昌
内海氏 安重
江戸 不印
一村氏 良三
江戸住 恭次
伴与松山住 契舟

萬々酒樽 付子糸

酒は解足 ぬねしうえひ守

江戸住

林廉

秤よりぬつちあや多ひ守

与列松山

一景

新宅より子まつり

江戸

大黒やねぶきしつ以福まつり

恭次

あきらひの利生もあきやえひ守

凡松子

定重

萬々祭

大黒のむねに萬々祭の掃除

讃波子松住

道政

萬々祭のむねに萬々祭の掃除

信前主女氏

俊直

神本や木の祭乃ぬれ文とこ

江戸住

不印

えげ山そよふれ木の祭れぬや

江戸住

離雲

萬々祭のむねに萬々祭の掃除

光堂

恭次

あきらひの神大萬々祭のみを木

官徳氏

愚鈍

風はきてお天狗より木に祭

官徳氏

重利

廻文

中ちちり本代葉ハ折リ朽葉

勝満ち 行誓

風の多れ枯ちししゆる本代葉ハ

風松子 定重

母の代祖父の墓不

三川高 愚侍

本代葉ハも孫の多き墓

不

口切

口切イノヲ くる物布火灯ハ

口切 良庵

口切イノヲ くる物布火灯ハ

博住 正信

口切イノヲ くる物布火灯ハ

阿形氏 永政

口切イノヲ くる物布火灯ハ

直入

霜

口切イノヲ くる物布火灯ハ

伊豆古葉位 七森坊

口切イノヲ くる物布火灯ハ

博冷木氏 一景

口切イノヲ くる物布火灯ハ

伊与 一景

口切イノヲ くる物布火灯ハ

江戸 令巾

霜柱大坂住 灰清

霜柱下名相 台澄

日伊与松山 宗利

露乃玉勢列松坂 合棘

本大坂住 是望

及勢列津 友之

于尾列太山 直政

空大坂住 豊帝

月清次

四七

雪尾列 豊帝

慈草一村氏 良三

片矢野氏 未次

霜江戶住 心無

餅風形子 定重

雪同

夕阿形氏 真入

曆羨

おとしらうらねきまき磨羨者山下氏 正信
ほりてすけねる板やびま風弘子 定重
磨羨よ撰ふき井乃日る阿形氏 但治

無散 付雲

茶ぬきも玉殿とるすち敷江戸八木氏 正勝
甲列よあねる敷やひひの玉江戸山子 元勝
逃くのくや噴花はまこけ玉敷大坂 義純
木架天狗まうまうて降やあ魔小山氏 重尚
あられ

ふりこし板屋の雲反身此穴 嘉隆
雲龍乃れととせあやまあれ備前近方氏 貞則
酔杯とも板や片あめ雲酒風弘子 定重
あらし酒すくき酒い上戸乳播列住 龜尾
お哭よ付や肴も味噴出酒肥後 如自
版や柄一まの片あめ酒肥後 金丁
あらし酒すくき酒い上戸乳大坂 義純
上戸とあらし酒い上戸乳江戸住 義徹
正直や一旦乃下戸あらし酒

一雪

云の繁れ枝のこぼれつこめ雪
大坂住中修氏
正俊
勢利松坂
交友

鴉除乃待まて平守よ

あるやと見事か雪れ芭蕉れ雪
風松子
定重

笠根山の雪や海とく人足つら
江戸林氏
重信

流と海より海山とまきき山此雪
金谷氏
友光

大雪尔松雪と海山とまきき山此雪
小山氏
重尚

木立物ありてうねりるちれ雪
江戸住
愚心

雪の下よ雪乃下みる草葉雪
江戸住
恭次

氏人も足事とわくすや雪乃道
大坂住
未刀

四方山よはむ大雪や木もつら
伊与松山住
安重

薪おふや雪縮ふておふい本巻
江戸住
不印

志先まするはも成志る綿と神乃
寺本氏
直政

餅雪とくくんでおふ山のは
下野足利住
廉信

眉乃雪お成ふ山はまきき海雪の
濱野氏
宗勝

降先之家時雨や吾れ花車

津田氏

政祖

木中一ろれろ又之山方ちや筆の

播磨

政次

そとちも地へちけ根の根必り

老江住

恭次

ふりてとくハ思いまふけね根必り

大坂住

朝次

三のの花乃二階咲りや六乃花

宗悦

宗悦

たまるやうはゆりかた袖の言

福井氏

宗次

言見よあうーまうけせー

吾小片守此を也数日亭立

播磨完栗

幸次

眼耳鼻舌身意ひゆらや六花

肥前

如自

かあぐ屋しよ言小片のあや草の

空住氏

行貞

白下やゆきたるやも言れ枝

播磨

正林

道の若ハいつしハあきとく言の道

勢列

交友

花よあえんあきとも言言や富士代言

江戸中山

義徹

聖は満人ハたまれとあつれ舎

伊予松山

宗利

嶺へあうる足白るれや言乃言

坂本住

俊盈

かたのく陰や三笠根松の雪

南都住

素文

山あつち言の古枝乃枯る谷

且弘子

定重

山のりやあふ山あつち言

肥前住

實延

山乃雪尔仍存重依見重直氏子や比叡後重尚
 片免了肥本佐次住此も若くよをまけく重治是
 雪柳と渡さん園田氏く霜を正直ら
 寝耳あも少と廻すや雪と松平住
 薄雪よと家ハ草紙く雪の終濃列
 雪よ終片くもよりや志くぬ阿形氏
 山頭やけし雪若くうのあり三井氏
 志の時よある久志終く水回れ雪肥あ
 く海すくよわらえもみる和雪の田中氏
作正元 如自 近次 直入 塵哉 宗順

降るの足よい菊く雪く雪女風弘子
 見てい雪おんちりーやあり与列松山
 山く此葉本れ白きや雪海肥松山
 子り袖の白くひらや雪肥あ佐次
 風乃神終いちとのなるく雪女大坂住
 高山を志らう海も終此雪依木氏
 面は雪よ自在てくくたみく雪同
 雪仏を天上乃る雪必平形大坂住
 子りつきて道も雪よりの雪仏藩列
 定重 一景 金門 孝和 柳枝 道繁 同 荻昌 栄武

羅漢樹よあふ名はあまのくちを名

江戸八木氏

正勝

名佛化るまてはあまのくちを名

阿形氏

但治

ひ喰の處茶のうへ乃を名佛

小山氏

重尚

きのの松ハ風流文のまのを名

播列定栗

正林

ちくくとあまのくちを名

清水氏

愚心

氏く移るとなるめん廻すを名

播列定栗

玄甫

西天乃入日平あてふ雪を名

三井氏

近次

つるくまはあまのくちを名

風形子

定重

子一姓を名

大坂住

嘉隆

雪志海の美大層ハ山

嘉隆

と地や出合乃乃富士乃名

大坂住

矩重

名成良の富士のる名

進友氏

世耻

かゝる山をかくす名

銘雪子

夕嵐

富士山乃名

泉列定栗

森月

よの山ハ名

姫路

一幸

武義等と厨子乃名

山下氏

正信

山のく名

大坂住

貞富

去由のよ名

歌集に記さるるものなり

伝る

うけての歌詠もあきれたる歌 梅盛

伊吹山より

山と名を伊吹あれたの傍に 同

寺法師乃日とく人言よめり

南一もや出た家へ酒言言の 同

雪中亡父墓より

殺遍る事いとも言ふと念珠に 同

三ノ十三

氷 付水櫃

浪乃報うらまるとるに成るる水 江戸住 義次

氷ゆるけや不動のたかき 流列 義則

波のうみ成るる地よるせり 草岸 直道

片名を記とあり氷とあり 伊豆松山 宗利

あき月の村雲るれやあり 肥後住 惟次

障子とるるわが居の海乃氷 堺住 宗元

少るる氷水より 姫路住 廻夕

淨土寺歌

志もくともなれつるるるの氷

伊賀名張往

久重

自小もて味も味も氷座の多那

長弘子

定重

朝乃多れはくり友如くもえははら

江戸名野氏

愚心

と朝志のしむ中へはくうはははら

吾往

保意

よふあきくもれもやひてはくは

姫路

政次

澄水乃わきこと見極まつるは

末廣

井乃もれはあや天とあかき

嘉隆

子鳥

つれねや浪もゆりゆりたれも

見取子

定重

獨りともあやもれもまのあはれ

大坂若林氏

良久

田多れはつる

持列佳吉

毎風もあつるのまはれも

正利

あつれも我は波打もあつる

遠列自決

先定

人すんで友あつるれも

播列豊栗

正信

毛ひくもあつるあつる

持列今律

不必

飛舟のふたのふた波成るからる 大坂吉田 交清
友成よふるや沖乃の舟 姫路 新入
肴のもやまを 江戸住 舎棘

鴨 付死るゝある

とりひの毛と吹疵乃を此鴨 持列天徳住 正俊

廻文

舟のま鴨の舟鴨のま 下多羽 台澄
力と骨やあぢれじく鴨の汁 肥前住 素質

江戸住

舟の舟舟舟自波とき 江戸住 祐政
あまも綱より 江戸西 巻次

雁馬

気多きこれ 大坂吉田 昌矩
そい 大坂住 是等
小 福井氏 宗次
大 江戸住 了怡
る 是列自波知 光定

大骨を煮てや煮るふあえ之食

よみわらも膳成おし子乳を此方

惣之為成合々四十八羽手那

月形子 定重
坂本住 俊盈

埋火

海人等して新火よあさるふ法

江戸豊民 恭次

ふとこ海へ道行人のこころ

肥後熊平 忠重

人乃鼻も冬を焚うとすこころ

物列松坂 三信

埋火や歩む寝床のおさ合

小進友氏 世耻

四ノ十六

寝る炭おさし付くや及らぬ

加刺多田氏 正種

是と指張りわけ炭や消て火燈

大坂住 菖昌

埋火やもえてもけ乃とく高す

公金江戸住 高輔

小形乃とも炭よりつけそ高す

大坂住 貞重

埋火乃下外二部ありや餅乃か

伊勢松坂 三頼

火てその分半くひさるしと糲る炭

江戸住 柴庵

埋火乃せうも和吾れ下とみち

伊予松山 一景

火祖又といふ處も物や炭に耐

播磨兎栗 玄甫

伊予松山 玄甫

那波津よは千やばりまき火燧
阿もねまはらふ物とや火燧の子
年多けく命ちりたり玉火桶
其火とけみ火おけと夕々乳
埋火とせりむら子海に伽少
其火氷室火燧火冬の火室くれ
照龍

神樂 付火燧

年たもて神子の舞々りゆ
神示 一圓

教後や縄よはすかき神示ゆ子
ちく教打ハカカニ乃神示ゆ
報左報麻修一はくか神示ゆ
定重

廻文

き祢と神宜神示も樂うきねと
神示舞乞も季冬に祈禱
留左報片神示も舞神示ゆ
神ハ恒例是うもたす火燧
良三

了田中 正久

坂本住 俊盈

中村氏 尚栄

尾形氏 定秀

阿形氏 直入

南條住大輪田氏 照龍

博後木氏 一圓

紀列屋氏 一合子

後河前中 友松

凡松子 定重

伊与松山 宗利

紀列住 氏吉

窪氏 行真

園田氏 正直

一村氏 良三

お火焼やまゝいする花もかまひす
後やこくするお火焼やあつりあ
作らるるけ火焼と花家たりとも

肥後住

如自

寺本氏

直政

定重

冬梅

是も冬花内りうみる花宗梅
去らんといひたるを花右梅
冬花中少くはるあや花の兒

具松子

定重

樓

友廣

伊与松山

一景

口千八

水仙

花に風吹ハ水仙天麻鬼多那
水仙乃齒のちりす花のり

姫路小川氏

元武

具松子

定重

寒菊

寒菊の香見花意の障子
寒菊の日よせする花早花文字
花の香月よせする花早花文字

尾列名古金

正義

大坂住

徳懐

具松子

定重

醉花出わや、極寒、菊乃花見酒

阿形氏

直入

衾

付 紙子綿子

女中

頭巾に我すうす紙必のあこぶ

窪氏

行貞

志記の人のあきおるりやう紙衾

松坂田中氏

是望

厚連たる人目るるのあ衾

姫路住

秀昌

冬乃あ衾をさへ紙をさへあ衾

大坂住

定重

所々の家よあ衾張ひまれき紙子

伊勢松坂

若昌

祢垣乃内も等あわや深紙子

伊勢松坂

畏雅

四十九

やうくくハキテのあうう寸紙子

江戸住

蝶子

實盛のあうう寸紙子

ま列住

笠居氏

ぬきあてひまゆ頭巾の礼義

安藤住

矢代

深及やう紙

三井氏

近次

おく山さきあはる丸紙巾

大坂住

春良

法々のあまよすんありとあやあけ

江戸名津氏

愚心

寒さをああそれとあひあき

阿形氏

同

あうてあ肌をゆるうすあ綿子

阿形氏

直入

吹とあけあうあああ紙子

同

多風乃とと心もなげ頭中
景
妻乃縁とらてしやふ乃とてこ
貞則

大師講

乃ら死もこれ比敷粥や大師講
本也
比敷乃山住より大師講在り
定重
傳るとて行ふやたい大師講
福井氏
宗次

寒垢離

付鉢扣

四ノ次

寒垢離や寒も難行苦行人
友清
色則是空也忌すや鉢扣
鉢扣
三昧成ありくは見て
凡胎子
定重

佛名

とる久ね如也身や設家均仏名
井口氏
重久
とるよ月乃乃相陰るし三佛名
江戸徳井氏
不印
心より専らて佛乃名
凡胎子
定重

冬月

あまのりてまゝく出るとし冬月

窪氏

行貞

正月の初しりしあの子の縁りれ

務列日永住

次劫

神子あま月あえりてる物道り

櫻辻氏

宗元

冬あけて冬此月見れりす

風松子

定重

冬きぬもひびいされぬそ月れ魚

務列今津

子必

務列津宗俊一因忌追善し

侘心子

梅盛

しつりもかきりて同じ冬此月

四廿一

綱代 付紫漬

すのことそひきあけりる綱代

風松子

定重

冬ハ猫脚起りつる乃用きり

草津住

重道

家重そそりて人常名綱代也

伊予松山氏

幸重

善分

鬼や笑ふ十年成りし善分也

海老山住

重俊

善分豆也中代為善分のお母也

伊予松山

一景

節分也 春夜雨もにうーりし
打者也 鬼は大豆
伊予松山 道琳
肥後住 一帆

十二月中旬五日迄分ちるりわ

鬼はういこれ中乃社のさふ
一入子
松野住

松野守の鬼のこぬる此由
慶命
國領氏

本家年此神すこたるれ也
宗榮
南都

妻也隣も近除社の年おとこ
宗利
伊予松山

除社の年乃徳もも鬼も
之利
姫路三木氏

大か家小家年とら大豆やせの
常久
竹井氏

四六三

若乃坂踏除社こゆふ年乃若
定重
風証子

年内也

年乃内也中るく廣き
定重
風証子

年乃内也中るく是左
後直
佐前片上志久氏

く家まといぬ乃年あり
大坂久家氏

く家まといぬ入る年此内
安永
新洲津川中氏

年乃内はまといぬ
一俊

年忘

けふもあすもあすびひ也

風松子

定重

年乃肉工の事也

年忘 武友氏

正次

けふもあすもあすびひ也

姫路住

棒字

雑考

甚ハあつこちハ

嘉隆

老足やあそれあ

大洋住

友頼

四ノ六三

おつたた

伊予松山

契丹

多る肌

与列住

政友

重兒身も

大坂吉田氏

友清

けふもあすもあすびひ也

小村氏

嘉隆

あつたた

勢列松坂

正則

きーとそ

竹

濃列大垣

三頼

只角乃

加列菰井氏

清里

灯や

博徒木氏

土口勝

四乃

一圓

有くおぼろぎて家わら多むね
大坂吉田氏 友清
 年毎にとうくとやすれと棚の煤
坂本住 俊盈
 考れも寺入の梅乃坊
阿形氏 直入
 打よする和途の後意やいけり
内海氏 覚壽
 すくをきやあつたまふ家れす毎
播磨定栗 安重
 菜も終てておせる斗也珠教基
三河吉田氏 正林
 冬ハ程ふ湯よ入てもさささ
目列者住 愚侍
 身よとあ年乃矢遠への礼也
高野山大徳氏 催笑
 餅花よほくハ小蝶の秘すそ縁
性觀

四六四

金閣寺より
侘心子
 冬の家山のあまや金町寺
梅盛

案本堂

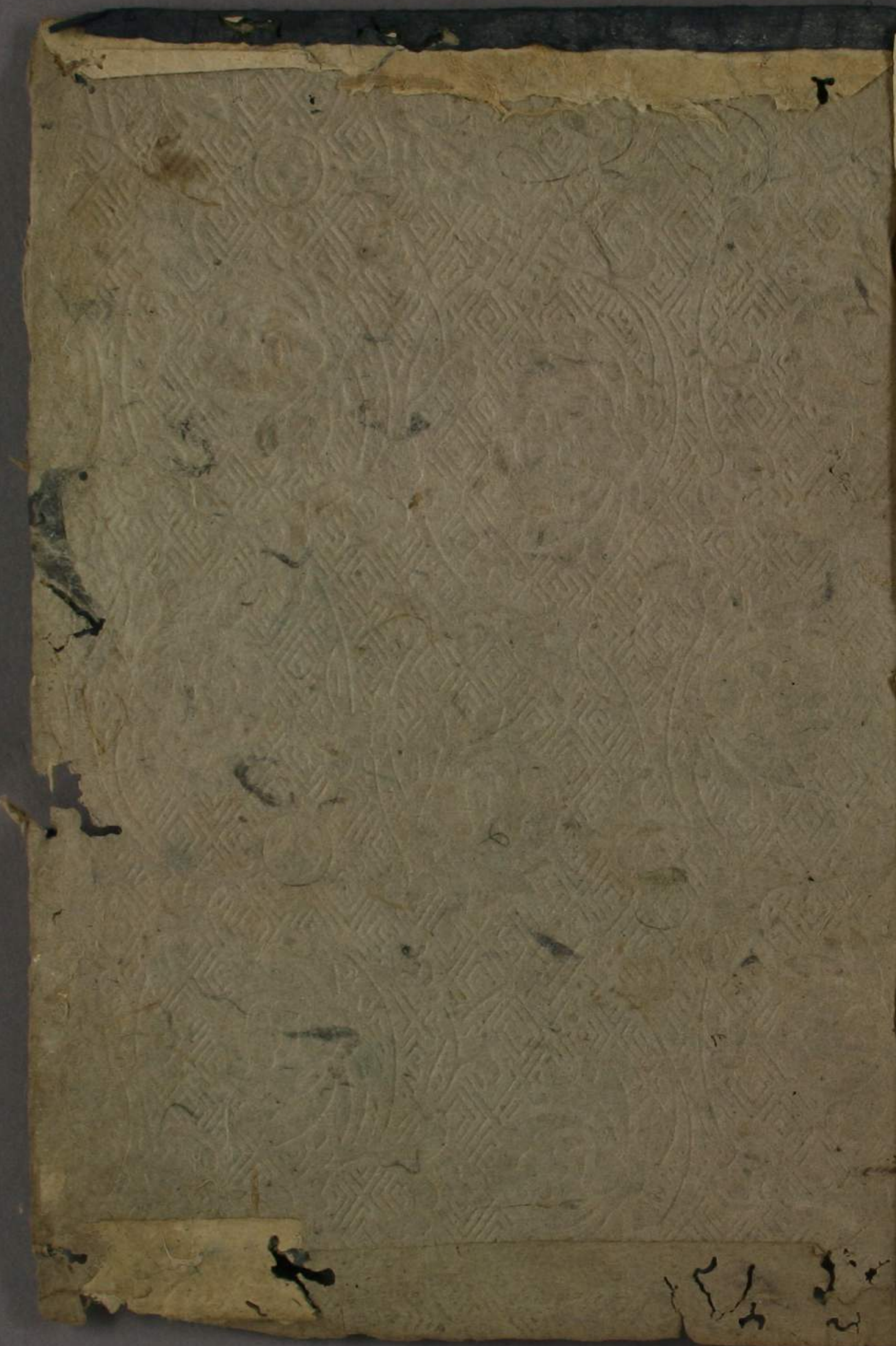
正月や娘ハハハも年代考
大坂住 貞富
 老とゆるせまもるもハハ
江戸住 恭次
 氣成せくふとてもあくる年の
播磨水郡氏 幸吉
 世のつまる方をせんか年の
江戶住 螺子
 名乃火社光の陰やハハ
三井氏 近次

去やあす家来り乃年此等
 門の中より布衣をある所を
 一日ハ長く三ツカケたる和家等
 未八月日此迄まり着く
 去城ま川毎日の物やあく
 幼年ハ実ありあけの一和
 餅越つき月をたわゆる
 正月此羽とやとせいか
 年乃矢城ととせ一念
 場谷木氏 一圓
 肥後住 一帆
 伊与松山 嘉隆
 大沢氏 重
 大坂住 柴貞
 三正
 左尾氏 忠俊
 田中氏 正元
 肥前住 實延

四六五

四六六

月くはめて一つとら此
 年此矢乃射上と下なる
 ともやういふ一となる
 年日等は月と射一大晦日
 各向するなりと由りそ
 々々々々此おすはる代乃
 肥前住 如自
 阿形氏 但秀
 紀列容藤亭 一入子
 小山氏 重尚
 矢橋氏 未次
 風船子 定重



Handwritten text on the inside of the book cover, written in a cursive script. The text is arranged in several lines and appears to be a list or inventory of items. The words are difficult to decipher due to the cursive and fading, but some legible words include:

- West
- York
- Book
- Map

There is also a small, illegible stamp or mark in the bottom right corner of the page.

